

あとがき

この度、岩手県高齢者福祉協議会東日本大震災記録集「災禍の淵から」を編集するにあたり、県内各ブロックから6名の委員を選出していただき、その編集をすべく委員会活動をしてきました。委員会を通じて情報収集をすればするほど、被災地の苦悩、切なさが垣間見え、如何にすさまじい光景だったか、又それを支援してきた内陸部の施設では、どのように支援をしたらしいのか、思い悩みながら支援をしていただいた実態の顛末を知り、その苦労を改めて実感しました。

有事の際の超法規的措置、行政との関わり、地域の福祉避難所としての拠点のあり方、相手の事がわかるような行動につなげるための情報収集、備蓄等の課題など、解決していかなければならない事も山積しております。

官民が連携しながら地域を支え、拠点施設を中心とした関連する事業が安定的に提供されなければならない、また地域に開かれた福祉施設として、災害弱者と呼ばれる方々に対するサポートをしていかなければならないことも現実であり、それが責務であると思います。

常に災害に備えることで、各々の施設での事業継続計画（BCP）、万一事業活動が中断した場合でも、復旧に重要な機能を再開させ、業務中断に伴うリスクを最低限にするために、平時から事業継続について、戦略的に準備しておく計画の充実を図ることが大切なことであり、現在の最大の関心事だと思っております。

この記録集の第一の目的は、現場での事実を伝えること、そしてこの震災を風化させないこと、そしてもう一つは次への備えであります。この記録集が県内はもとより被災地各県、そして今後想定される南海・東南海・東海地震に備えた防災マニュアルを作成する上での参考になればと思っております。

そして私たちが取り組んできたことが、被災地でのあり方、そして支援活動計画作成につながっていけば幸いです。

最後に、「災禍の淵から」を編集するにあたり、各施設からの情報等の提供、各委員の熱心な意見交換、それを支えていただいた皆様方にあらためて感謝申し上げます。

被災地は一歩一歩ではありますが確実に前進しております。今後とも皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

岩手県社会福祉協議会・高齢者福祉協議会東日本大震災記録集検討委員会
委員長 芳賀 潤



各施設からご提供いただいた新聞記事の中で、出典不詳のため新聞社の許諾を得られず掲載できなかったものがありました。ご了承くださいませ。

社会福祉法人岩手県社会福祉協議会・高齢者福祉協議会
東日本大震災記録集
災禍の淵から…

発 行 平成25年3月

発行者 社会福祉法人岩手県社会福祉協議会・高齢者福祉協議会

事務局 〒020-0831岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内
社会福祉法人岩手県社会福祉協議会 福祉経営支援部
電話 019-637-4482 FAX 019-637-4255

印 刷 永代印刷株式会社

〒020-0811 盛岡市川目町23-10 (盛岡中央工業団地)

電話 019-623-0111 FAX 019-625-5454